



新発田総局
 〒957-0052
 新発田市大手町 4-4-6
 0254(22)2430
 FAX(26)6035
 n-shibata@niigata-nippo.co.jp

胎内市の中山間地にある農業者グループと、障害者就労を支援する市内の事業所による「農福連携」が今秋から始まった。事業所の利用者が

胎内

農作物の袋詰め作業などを請け負い、農家の人手不足解消に一役買っている。関係者は取り組みの拡大に期待を寄せる。

生産者と就労支援事業所 取り組み開始

農福連携 求め望まれ



農林水産業への障害者や高齢者の参加を促す農福連携は、国も取り組み拡大に向けて新しい推進ビジョンを掲げている。今夏には、英語で11月29日を「ノーフックの日」とすることも決めた。胎内市で新たに農福連携に

くわえ圃田振興会とカレイドスクエアパーク胎内の利用者によるサトイモの収穫作業 胎内市 鎌江

サトイモ収穫 共に汗 産品袋詰め作業も

取り組んでいるのは、鎌江の農家4人でつくる「くわえ圃田振興会」と、就労移行と定着支援を手がける下館の「カレイドスクエアパーク胎内」。振興会が生産する乾燥キクラゲの袋詰めやサトイモの収穫作業を、カレイドスクエアパークの利用者が手伝っている。

11月中旬には、協力してサトイモの収穫作業にあたった。この日はカレイドスクエアパークから利用者7人が参加。掘り起こされたイモをかごに入れたり、運んだりして汗を流した。利用者の男性(25)は「鎌江の人たちと話せて楽しい」と率先して作業に取り組んだ。

振興会の田村信秀会長(70)は「作業には人手が必要なので一生懸命働いてくれてありがたい」と目を細める。

カレイドスクエアパークを運営する羽田健亮さん(39)は「稲の種まきなど、ほかにも携われる作業がある。農家が高齢化する中で支える側になっていきたい」と話した。

五泉市太田のナック

に、見学やワークショップ 東京都のアパレルメーカーが市議会12月定例会の本会

なかつた。市2000万円

取得する際、井畑市長は

10年が経過

すでに費消さ

もかなり多い

認の議案は提

おわび申し上

した。

この日の本

期を20日まで

決めた。歳出

億8065万

総額220億

とする24年時

正予算案など

12月定例
 12日から
 新発田市議
 会運営委員
 会定例会の日程
 日までの15日
 日程は次の通
 12日 本会議
 委員会付託▽
 一般質問▽18日
 19日 総務常任
 文教常任委▽23
 任委▽24日 議
 本会議(採決)